

令和4年度前期アーバンデザインスクール第4回実績報告書

1. 開催日時

令和4年9月8日（木）16時00分～17時30分

参加人数: 37名（UDCBKでの視聴: 15名、オンライン: 22名）

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、24回

2. テーマ

「インクルーシブな居場所となる地域拠点施設」

- 地域拠点施設の先進事例の学習を通じて、子どもから学生、子育て世代から高齢者まで、多世代の居場所となるJR南草津駅前の公共施設の在り方について、5回シリーズで展望する「多世代の居場所となる駅前の地域拠点施設について考える」の第4回である。
- 第4回の本スクールは、早稲田大学 都市・地域研究所 招聘研究員の岡田昭人氏を講師に迎え、阿部俊彦氏（UDCBK 副センター長、立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授）のコーディネートのもと、名古屋市ソーネ OZONE（おおぞね）の事例（社会福祉法人による市民事業）や資源カフェと多世代のコミュニティレストランについて紹介いただき、包摂的な地域拠点について展望した。

3. 話題提供者

岡田 昭人 氏

早稲田大学 都市・地域研究所 招聘研究員



4. 話題の概要

岡田氏による講演

(1) 大曽根住宅研究会の設立

- 愛知県名古屋市にある古い団地（全 480 戸のうち、空家率 26.7%）と団地内にあったスーパー跡地（約 1,000 m²）の再生について、2015 年に愛知県住宅供給公社に提案を行った。
- 最初、2014 年に再生について声を掛けられ、まずは、地域の人達を回り、地域とともに「大曽根住宅研究会」を立ち上げて、研究会の議論を公社に提供した。

(2) コミュニティ形成を実現する 4 つのステップ

ア. ステップ 1: サービス付き高齢者住宅を起点とした生活サポートの提供

- 具体的に、4 つのステップを公社に提案することになった。
- 4 棟のうち、いくつかの部屋をサービス付き高齢者向け住宅に改修して、生活支援をサポートする体制を整える。

イ. ステップ 2: 空き店舗の活用によるコミュニティ拠点の実現

- グループホームやコワーキングスペース、コミュニティレストランなどを整備し、団地の住民のみならず、周辺の住宅の居住者も安心できるケアシステムの拠点と多世代が楽しめるまちづくりの拠点を創出することを目指す。

ウ. ステップ 3: 多世代居住のための住まいとコミュニティづくり

- 家族や多世代での居住には不向きな現在の部屋の構成を見直し、二戸を一つにする家族用住居や三戸を一つにするシェアハウスなどに改修することで、多世代が暮らせる環境を整備する。

エ. ステップ 4: 周辺地域を含めた包括ケアシステムの構築

- 大曽根住宅周辺の住民、ボランティア、自治体、病院、大学、商店などとの連携によって、現在住んでいる場所で最後まで暮らし続けられる仕組みづくりを行う。
- これら 4 つのステップの中で、多様な組織が関わることを目指していたが、結果的にそれぞれの組織の事情もあり、全てを実現することはできなかった。
- 地域社会もそれぞれの問題によってグループ化、タテ割化が進んでおり連携できていない。今後は、地域にある色々な資源をいかに使うかが大切になってくる。

(3) 地域協同を支える仕組みとまちづくり市民事業

- 多様な地域資源を活かすまちなかでの共生の暮らしとして、協同の仕組みによる事業主体や血縁によらない家族の住まい、人を育て、仕事をおこし、地域をつくること

をめざした。

(4) ゆいま〜る大曽根 + ソーネ OZONE (おおぞね)

- 分散型サービス付き高齢者向け住宅の「ゆいま〜る大曽根」としげんカフェを軸とした地域交流拠点である「ソーネ OZONE」により構成される場所として再生させた。
- ソーネ OZONE は、NPO 法人が公社からスーパー跡地を 20 年借りる契約に基づいて整備した。イベントホール（ソーネホール）や生活用品・障害者事業所で作った商品が買える店舗（ソーネショップ）などがある。
- 障害者の就労・交流の場ともなっている「しげんカフェ」では家庭から出る資源の回収を行っている。利用者は資源回収によってポイントを付与され、カフェでの飲食に交換することができる。
- 障害がある人もない人も一緒に働く職場になっているほか、小学生の職場体験も行っている。
- 地域のなんでも相談所として設置している「ソーネそうだん」では、生活援助、就労援助、居住支援などの相談を包括的に受け付けている。

(5) 「居場所」づくり

- 居場所とは、「誰でも、目的がなくても、そこにいることができる場所」であり、本来の公共の場が意味するところである。
- 「居場所」を共同してつくりあうことで共生する意識を育て仲間をつくっていく「活動」そのものが「居場所」になる。
- 居場所に来ることで、互いの存在を認め合うことができる。支援しているつもりでいたのが、実は支援してもらっていることに気が付く。
- 活動することで、課題が自分のことになる。また、エンパワメントされ、与えられる人から主体者になることにつながっていく。
- 地域の多主体との連携によっておもしろいことが生まれる。多様な関わり合いの中から、次の展開が生まれ、「市民意識」も育まれていく。さらに、居場所同士の連携により、センター機能がハブ機能に移行していくこともある。
- ソーネ OZONE の活動を通じて、多様な事業体の連携による社会的連帯経済、協同労働など新しい社会のイメージを共有することが可能となってきた。
- 今後も、住まいの貧困や子どもの貧困への対応、多文化共生社会に向けた取組など、継続して行っていくことが大切になる。
- まちづくり市民事業を暮らしからプロジェクトを考えるものにし、都市の持つ集積力やネットワークなどの地域資源を活用していく必要がある。
- 共感できる仲間とともに、まちづくりをワクワクすることができるものとし、課題解決にとどまらないようにしていきたい。

- 競争原理、経済圧力という価値とは異なる視点から居場所づくりの意味や地域での暮らしと環境を見つめ直す。南草津駅前のマンションが並ぶ環境を見ても、経済圧力に圧倒されるような状況が見受けられる。
- 住まいとまちの関係を単なるハコとして見るのではなく、様々な問題を含め、地域の居心地の良さをいかに創造していくかという視点から捉える。

5. 質疑応答等

- (1) 阿部氏: 今まで、ハード主体で、ハコをいかに使うかという視点が考えられがちであった。しかし、誰のために運営しているのか、そして誰がそれをするのかということがより重要である。また、フェリエ南草津では、事業の仕組みについてファイナンスを含めて考え、店舗をつなぎとめるには何が必要かを追求していかなければならないと思う。センターの在り方にも言及されたが、居場所という観点から捉えると、UDCBKでも、まちづくりに絞る方向性のほかの可能性もあるのかもしれないと感じた。重要なことは、そこを訪れる人・暮らしている人が、どう過ごしたいのかということだと思う。

岡田氏: 空間づくりということ言えば、気持ちの良い場所のデザインということが大事だと感じる。単独ではなく色々な主体が連携すると、様々なことができるようになる。今は、ソーネ OZONE がセンターだが、ハブになることも考えられる。

- (2) 参加者 1: 事業の目的合理性について何か考えはあるか。

岡田氏: 目的合理性というものはあまり追求していない。そうではなく、住居支援もある、資源回収もある、そういった包括的な場所の中で、みんなが楽しく暮らすことを目的にしている。その場、その場で事業を考えていく。

- (3) 参加者 2: 「支援しているつもりが、支援されていた」という言葉があったが、どこを一番、配慮されて事業を営まれているか。

岡田氏: 支える、支えられるということが逆転する場合が相当ある。例えば、ソーネ OZONE では、障害者も健常者も一緒に働き、賃金も等しい。お互いがどう一緒に暮らすか、お互いを理解するプロセスを通じながら、それぞれの主体が少しずつ合意していくことが大切だと思う。

- (4) UDCBK: フェリエ南草津を再生する手立てのようなものは考えられるか。

岡田氏: ソーネ OZONE の運営は常に変化している。この場所を、イベントや学会で使ってみたいという人が押し寄せている現状がある。場所、空間が持つ魅力というのがあり、色々な主体との連携、ネットワークの中で、想定してい

ないような使い方も出てくる。

6. アンケートまとめ

参加者 37 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 15 名、回答率は 41%だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代 (回答数: 15)

10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上
1	9	4	1

(2) お住まい (回答数: 15)

草津市内	滋賀県内他市	滋賀県外
5	6	4

(3) 職業 (回答数: 15)

学生	大学関係者	会社員等	その他
1	1	10	3

(4) 開催を知った手段 (複数回答) (回答数: 15)

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
3	2	2	4	0	2	2

問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 本日はありがとうございました。ソーネおおぞねの多様な人が一緒に暮らせるインクルーシブな環境づくりについて、興味深いお話で、ランドスケープデザインにおいても生かせるのではないかと思い聞いておりました。昨今、インクルーシブやダイバーシティ、ユニバーサルといった社会的弱者や多様性を重んじることが重要になってきていますが、大事なのは、社会的位置づけやどのようなテーマをもって創っていくかということを再認識させていただきました。
- 以前に比べ、(UDCBK がフェリエにある時と比べ)あまり、商業施設と公共施設で、フェリエ南草津との連携ができていないし、接点もないような気がします。なんとなくですが、キラリエの方がいろんなことを活発にされているので、南草津駅周辺、大丈夫なのかなあ?と思っています。
- 抽象的になりがちな部分を、とても分かりやすくご説明いただきありがとうございました。ハートフルというか、こんなセーフティネットが充実している街で暮らせるのは羨ましいですね。生きていれば何とかかなると思えるというか。インクルーシブでアナロ

グな環境整備に加え、次世代の感性、デジタル化、そのバランスによって、まちの個性が作られて、一人ひとりのウェルビーイングを実現するのかな、と感じました。

- とても興味深い事例と「居場所」づくりの大切な視点を教えて頂くことが出来ました。感謝申し上げます。UDCBKがこの事例のような場になる訳ではなく、このような場も創出していけるまちの良きアドバイザーになれると理想的だなとも感じました。そういう意味からも、この事例の一番最初に取り組まれたように、南草津エリアの多様な方々への聞き込みをしっかりと行っていくことの大切さを改めて気づかされました。コミュニティの場づくりにおいて、誰でも目的がなくてもそこにいることができる場所という考え方が大事だということを学びました。居合わせる場所をつくり、その時々にも生まれる交流を楽しめる場所をデザインする。そういった考え方が自分の中にはなかったので、とても重要なことを知ることができて良かったです。前に別のウェビナーで聞いたことなのですが、コミュニティをつくるというのは、おこがましい。外から見たときにそこにコミュニティがあると思われるようにデザインすることが重要。この言葉と今回、お話しいただいた内容がリンクして、今後のまちづくりに対しての関わり方やデザインの仕方に対しての意識がアップデートされました。
- 先進事例を学習できたので感謝です。
- 少し難しく感じました。多様な方が集まりやすい「居場所」としてUDCBKが機能すると、魅力あるまちづくりにつながる。
- 私の専門分野ではなかったので、難しかった。ですが、参考になりました。
- 居場所づくりに関する方の意識の共有化が重要であるが、なかなか難しい問題だと感じました。
- 支援しているつもりが支援されていた。運営上、難しい面や課題も教えていただければ、更に深く知れたかも。
- 場を作るにあたって、デザインもとても重要ですが、その場をどのように使いたいかということを経験の人達と一緒に考え、共有することが大切なのだと分かりました。障害のある人や高齢者、大人も子供も皆が暮らしやすい環境って難しいなと思っていたのですが、そのような様々な人が分け隔てなく、気軽に参加できるコミュニティがあるということが暮らしやすさに繋がるのかなと、今日の話聞いて思いました。
- 空き店舗や空き部屋をどう生かすか、地域で何が必要とされているか、居場所をどう作るかと言う点を絡めて複合的に実現している点がとても素晴らしいことですし、とても興味深かったです。これまでの事例のなかで最も、いまの南草津に適用しやすいのではないかと感じました。フェリエの空き店舗など。
- 今回のお話の中で、一番印象に残ったのは、＜居場所とは何か＞というお話の中で伺った、「居場所とは、誰でも目的がなくても…」という言葉でした。理由は、それが、私自身が一番、街づくりに望んでいるものであり、そしてUDCBKの活動に参加するきっかけとなった事であったからです。また、事業を進める中での現実的な問題についての

率直なお話は、とても貴重な内容であったと思います。多様な事業体の連携や社会への意識の共有化など、実際に南草津が抱えている課題でもあると強く感じました。忌憚のないお話を伺う機会が今後もあればと思います。

- 岡田先生のようなソーシャルアントレプレナーの目線をもった人のコーディネート、ファシリテート力が重要だと感じた。つながりしろ、関わりしろをどうデザインするかはニーズを合わせることも大事だが、それをもとにしたコンセプトにそう形にしなければならぬとまなんだ。

問3. 今後のテーマや概要等についての要望

- 今年度のスクールも既に4回が終了しましたが、とても意義深い充実した機会を頂けたと感謝しています。最終的には、これらの学びや気づきからUDCBKとして、南草津エリアのまちづくりとして何をどのように展開していくべきかの方針(素案)を示し、次のフェーズへステップアップできると良いですね。
- 全体でもう少し長くても良いのかなと思いました。
- 少し短いかもしれませんが。平日は17:30以降が助かります。
- しつこいようですが、子連れの主婦としては日中16時までの開催がありがたいです。